



1. 新しい目標に向かって

新年の始まりは、誰にとっても物ごとの取組への新たなる期待とともに、挑戦への意欲を高めてくれます。それだけに、今年はどのような自分でありたいか、そのためにどのような役割を果たすべきか、を自分自身でしっかりと意識することが大切です。「わからなかったことが理解できて良かった！」という自らの活動の成果を実感するためには、目標を持ち、その実現に向けて力一杯取り組む過程が大きく関係します。私たちは、目標があることで努力をし、努力したことで成果を期待するものです。目標を設定することなく漫然と努力しているだけでは、やる気も高まりません。そこで、自分自身で目標を設定することで、困難を乗り越えて頑張ろうという強い意志を持つことができるのです。とは言え、努力すれば必ず望んだ結果を手にする訳ではありません。しかし、目標に向かって努力することや諦めずに取り組んだ満足感は、目に見える以上に本人にとってやりがいをもたらしてくれます。その意味で、目標が達成できるに越したことはありませんが、好ましい結果が得られないことで努力がすべて無駄になるとは言い切れません。目標に向けて、自らの力を注ぐことで、充実感や自信をはじめ、次への挑戦につながる意欲も手にできます。このように目標を持つことには大きな意味があります。

学ぶことは、まねることと言われますように、学ぶ環境にお手本となる存在は、欠かせません。めぎす姿が見えることで、学びが実現するとも言えます。それだけに、身近な存在である私たち大人は、良きお手本としての役割が求められます。教育は共有であり、鏡育でもあります。そこにあって、子どもは大人の鏡であるとも言われます。新学期を迎え、私たちが大人として、教師として鏡たる子どものめぎす姿であることを意識し、目標をもって前向きに取り組む姿勢を示すことで、その役割を果たしていきたいと思えます。

2. インフルエンザを予防しましょう

テレビのニュースや新聞などでは、大阪府がインフルエンザの警報レベルと報道されています。1月には、「大学入学共通テスト」や「私立中学校入試」、2月には、「私立高校入試」、3月には、「公立高校入試」などがあります。受験生がいるご家庭もあるのではないのでしょうか。招提中学校の子どもたちのみならず、すべての受験生が安心して受験できるように、また、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように、「手洗い・消毒・マスクの着用」などの基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

3. 一年の計は元旦にあり

「一年の計は元旦にあり」ということわざがあります。物事は最初が肝心、物事を始めるには最初に計画を立てておくべきだという意味のことわざだそうです。あの大谷翔平選手は、高校一年生のときに目標達成シートを作成し、自分の目標を達成するには、今何をやるべきなのかを明確にして取り組んだそうです。具体的には、「ドラ 1(ドラフト 1 位)8 球団」を目標にし、それを実現するための小目標として、「運」「メンタル」「コントロール」「スピード 160 km」「人間性」「体づくり」「キレ」「変化球」などの項目を挙げていたそうです。三学期が始まりました。三学期は一年で最も短い学期ですが、子どもたちには、この短い期間に、将来どんな自分になりたいのか、そのためには何が必要なのかをイメージして、この一年の計画、スケジュールを立てて欲しいと思えます。